

第8回蒲田駅周辺地区グランドデザイン専門部会 議事要旨

日時：令和3（2021）年10月28日（月）16：00～18：00
場所：大田区役所本庁舎5階 特別会議室
委員：中井 検裕 東京工業大学 環境・社会理工学院 教授
大沢 昌玄 日本大学 理工学部土木工学科 教授
野原 卓 横浜国立大学大学院 准教授
高橋 竜太郎 大田区鉄道・都市づくり部長
西山 正人 大田区まちづくり推進部長

1 開会

2 部会の成立

部会長より専門部会の開催要件と出席委員数が確認され、専門部会の成立が宣言された。

3 議事

議題：改定グランドデザイン素案（たたき台）について（資料3）

（委員）

32頁において、拠点や骨格軸を設定し、エリアを分けてまちづくりを行うことが一枚の図に示され、以降の頁でそれぞれの場所での取組が詳しく書かれている。この図をアピールした方が良い。

（委員）

エリアに明確な境界線がないと記載されているが、蒲田駅周辺地区グランドデザイン（以下、「蒲田GD」という。）の対象区域の外側を考えた時に、境界線で突然まちづくりが変わるわけではないので、外に広がっている感じを出しては。

（委員）

33頁のコラムだが、「道路管理者」に「等」を付けた方が良い。

（委員）

40頁のJR・東急蒲田と41頁の京急蒲田について、目指す姿は同じという事か。

（事務局）

検討中のため同じ目指す姿となっているが、次回の会議で案を提示する。

（委員）

43頁のアクション（以下、「AP」という。）6-②と12-⑤にアクションの実施場所の記載がない。

（委員）

他委員のご指摘でもあったが、32頁をもう少し整理した方が良い。GD対象区域と外側の区域との連携について、図で表現するなどの工夫をした方が良い。上の文章についても境界付近では隣接するエリアと協調するような都市づくりを行っていく事が必要である旨を文章にした方が良い。

（委員）

4頁の「まちづくりの経緯」にある年表の四角いマークは塗り分ける必要はない。

（委員）

18頁の「広域的な都市構造」、19頁の「地区の都市構造」の後に、2核1軸の都市構造とエリアの特徴を踏まえたまちづくりを行うことを示す頁を作成し、その後に「エリア別の取組」、「まちの将来像」が来る順番にしては。

（委員）

鉄道間の乗換え空間について考えなくてはいけない。

（委員）

AP5の中に、乗換え利便性に配慮した無機質ではない空間整備をしていく旨の取組を書いても良い。

(事務局)

位置づける方向で検討する。

(委員)

43 頁の呑川に関する AP6-③、AP12-⑤についても関係するエリアを示した方が良い。

(事務局)

該当するエリアを示す。

(委員)

22 頁の将来像のイラストについて、現行蒲田 GD にも似たようなイラストがあり、人や活動に焦点を当てたものになっている。現行イラストを使用しても良いのではないか。新たなイラストにするのであれば、何を伝えたいか整理する必要がある。

(委員)

現行蒲田 GD の 22・23 頁にあるような表を入れた方が良い。今回は新しく都市構造の考え方が増えているため、どこに表を入れるか構成を含めて検討していただきたい。

(事務局)

承知した。

(委員)

AP12-⑤「潤いを創出する呑川の水質改善」は区で行っているのか。

(事務局)

川の管理は都でやっているが、水質改善は区で行っている。

(委員)

AP6-①「歩行者の円滑な移動と多様な活動を支えるストリークの創出」について、今後可能性としてあるのであれば、道路空間の再配分について言及しては。

(委員)

AP8-③「人々が留まり、にぎわいを生むオープンスペースの拡充」は民地を表していると思うが、公共空間と民地の一体的なあり方についてどこかに書いた方が良い。

(委員)

現行蒲田 GD に比べると、大分取組が充実している。

報告：第 5 回蒲田駅周辺地区基盤整備研究会の報告について（参考資料）

以上